

本日は皆様ご多忙のおり、本校 PTA 会長 山田充浩様、静岡市清水区区长 村岡弘康様 はじめ、学園の内外から多くのご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、かくも盛大に中等部第 68 回・高等学校第 18 回の入学式を挙行できますこと、高いところからではございますが、心から御礼申し上げます。

さて、中等部 145 名、高等学校 338 名の新入生の皆様、入学おめでとうございます。そして、保護者の皆様、お子様のご入学心よりお祝い申し上げます。

少子化の折、公立私立とも入学定員を満たさない学校が多い中、本校中等部は 120 名の定員を大きく上回る翔洋中等部始まって以来の 145 名の入学、5 クラス体制でのスタートとなりました。また、高等学校も募集定員 320 名を上回る 338 名の入学、9 クラス体制でのスタート。本校の在籍者数も昨年のスタート時より 147 名の増加となり、多くの活気あふれる生徒の声が校舎内外に響きわたることと思います。「変わる！静岡翔洋」を掲げて本校の新しい教育方針、教育内容を広く訴えてまいりました。この入学者の数は多くの静岡県民、県外の皆様の本校に対する期待の表れであると思っております。皆様の期待に応えるべく教職員一同身を引き締めて

日々の教育活動にあたらなければならないと決意を新たにいたしました。

さて、新入生の皆さん。みなさんにはたくさんの可能性があると思います。私は思っています。しかし、多くの人はその潜んでいる可能性に気付かないで、あるいは発掘しないで日々を過ごしてしまうのではないかと思います。

教育という場は皆さんにチャンス、トライする機会を与える場です。我々は皆さんにたくさんの「皆さんが伸びていくための、可能性を広げていくための機会」を与えます。東海大学は他の中学高校よりその機会を多く与えることができる学園だと思っています。全国に展開する東海大学のネットワークが生み出すもの、多彩な学園行事は他の学校がまねできるものではありません。

しかし、我々はチャンスを平等に与えますが、そのチャンスを生かし自分のものにするかどうかは皆さん次第です。結果の平等まで求めてはいけません。それは自分の努力と汗で勝ち取るものなのです。もちろん我々教師は最大限のアドバイスをいたします。

そして、多くの生徒に望むものは自信を持つということです。自信とはなんでしょうか。読んで字のごとく自分を信じることです。

自分を信じていることができるまで、学び、努力し、鍛練し、汗を流してほしいというのが私の願いです。今まで皆さんはそういう経験をしたことがありますか。

もし、中途半端な勉強や努力しかせず、中途半端な汗しかかかなかったとしたら、自分を信じられるはずもなく、従って自信など生まれるわけがありません。自信が生まれなければ進むべき道も見えては来ないのです。日々をただ惰性でだらだらと過ごしていくだけでは未来はやってきません。

3月13日私は名古屋の女子マラソンの中継を見ていました。リオデジャネイロオリンピック出場のラストチャンスを賭けて、多くの選手が死闘を繰り広げていました。しかし、私の興味はそこではありませんでした。私はただ一人野口みずきという選手の走りに注目していたのです。彼女は2004年アテネオリンピックの金メダリストです。今でも彼女がゴールを切った時の姿を忘れることができません。しかし、その後のマラソン人生は必ずしも順風ではなく代表に決まっていた2008年北京オリンピックを直前になってけがで辞退するという悔しい思いも経験しました。

マラソンは最も過酷なスポーツであると言われていています。けがや故障が続く中、周囲の人々は金メダリストという栄光ゆえに引退を

勧めます、年齢も37歳になっていました。けれども、彼女は頑として聞き入れず満身創痍の中もう一度オリンピックを目指してスタートラインに立ったのです。

そしてもう一つ、棄権してしまった2013年世界陸上モスクワ大会のリベンジのために。

結果は2時間33分台の23位と記録、順位共にワーストとなりました。しかし、彼女にとってこの大会が一番の金メダルであると私は思っています。

彼女は真剣にオリンピックを目指していたのだと思います。周囲がどう評価しようと自分を信じて苦しい練習を続け、42.195キロを走り切りました。オリンピック出場の希望はかないませんでした。モスクワのリベンジ、完走するという目標は果たしました。そしてなにより多くの人々に勇気と感動を与えてくれたのです。

走りきることができるまで苦しい練習を自分に課し、ひたむきに努力し、「よしやれる」と自分を信じることができたからこそ彼女はスタートラインに立つことができたのです。みなさん、自分を信じるということはこういうことです。努力の上に成り立つものが自信です。

従って、結果はたとえ目指すものに到達しなかったとしても、さ

ほど問題ではないと私は思っています。

本日中等部生は6年間、高校生は3年間のスタートラインに立ちました。どうか自分を信じていることができるまで学び、努力し、汗を流し、友と語り、さまざまな機会に挑戦してください。

その過程の中で必ずや自信が生まれ、皆さんのたくさんの可能性が広がり、進むべき道が見えてくるはずです。

満開の桜のもと、深く美しい太平洋と秀麗富士が皆さんの門出をお祝いしています。

素晴らしい学校生活となることを祈念いたしまして校長の「告辞」といたします。入学おめでとう。